

本科 1月22日(木)

第58・59回講座 「地域再生」

講師 加藤 文男氏(前南房総市企画部長)

日時 1月22日(木) 10:00~15:00

場所 (午前) 大房岬少年自然の家 教室

(午後) 道の駅(とみうら・枇杷倶楽部、三芳村・鄙の里、おおつの里・花倶楽部)

テーマは、道の駅を活用した地域振興

全国で1040か所にまで増加した道の駅、その先駆けとして合併前の富浦町で道の駅「枇杷倶楽部」を設立し、その後合併により全国最多の8か所の道の駅がある南房総市で企画部長を務められた加藤文男講師による地域再生の講座が行われた。

午前の講義では少子高齢化が進む南房総での道の駅を活用した地域再生の試みについて実例をもとに体験を交えて解説された。またベトナムをはじめ海外にまで広まった道の駅の設立を支援された講師の経験談の話は非常に興味深いものがあり、受講生にとって地域振興について考える良い機会の講座となった。

そして午後は加藤講師の案内で南房総市の3か所の道の駅めぐりを行った。名産のびわを活かした「とみうら・枇杷倶楽部」、酪農や新鮮野菜を活かした「三芳村・鄙の里」そして大温室を使った「おおつの里・花倶楽部」を見学し、午前の講義の内容をそれぞれの現場で確認することが出来た。



地元出身の加藤講師を迎えての「地域再生」の講座が大房岬少年自然の家の教室で行われた。



加藤講師の実体験に基づく迫力のある内容とユーモアに溢れる話とで時間が経つのを忘れるほどでした。



三芳村「鄙の里」では地元の新鮮な食材を使った昼食を戴きました。



昼食の後、駅長の鈴木さんから「鄙の里」についての説明を聞きました。



おおつの里「花倶楽部」では大温室の中で花摘み用に栽培されている金魚草や極楽鳥花などを見学しました。



講師を交えて全員で記念写真



小雨の降る肌寒い天候でしたが、大温室の中でひと足早く春の南房総の花を見学できました。



とみうら「枇杷倶楽部」では、特産のびわを活かした道の駅の活動内容などの紹介がありました。